



開 Open your mind, 成 Be part of the world!



市立札幌開成中等教育学校 IB研究部 国際交流チーム Newsletter

Autumn tradition in England. 多くの英国国民が楽しむ日



Guy Fawkes Night (also known as Firework Night and Bonfire Night) is celebrated in the UK on the 5th of November. On this date in 1605, a man called Guy Fawkes, tried to use a large amount of gunpowder to blow up the Houses of Parliament. His plan was discovered and he was executed. Every year since that event, British people make life sized models of Guy Fawkes using old clothes stuffed with straw or newspaper. They then build huge fires and place the model "Guy" on top. The celebrations are held in the evening and start with the fire being lit. As well as the big fire and the burning of the Guy, the celebration includes the use of fireworks. In recent years Halloween (on the 31st October) has become more popular than Guy Fawkes Night, but the day is still enjoyed by many, many people.

—11月5日はGunpowder Plotの首謀者Guy Fawkesが逮捕された日。その夜は、藁で作ったGuyの人形を燃やしたり、大々的に花火を打ち上げたりして祝い、英国国民の多くが楽しむ日となっています。現在ではハロウィーンパーティーも主流ですが、イギリスの子ども達にとっては待ち遠しく、楽しんでたまらないイベントだそうです！—

No. 6	
October 22, 2018	
今後の予定	
北海道海外大学進学・留学フェア11/10 @TKP札幌ホワイトビルカンファレンスセンター	校内×切 10/23 13時
第22回道産子高校生ロサンゼルスホームステイプログラム	×切 10/31 (各自申込)
サークル・ザ・ワールド 11/10 (高校生対象) @大通高校	校内×切 10/24
札幌観光ワークショップ 11/4(市立高校生対象) 札幌市経済観光局主催、留学生と一緒に札幌の魅力あふれるお土産を考えるプロジェクト!ランチ付! 詳しくは掲示板を	追加募集! 校内×切 10/26 13時
海外留学支援制度(独)日本学生支援機構	×切 11/14 (各自申込)
ラグビーワールドカップ国際交流入門講座 12/16@ちえりあ	申込みは各自webで
第5期トビタテ!留学JAPAN アカデミックロング アカデミックテイクオフ	×切 2019年 1/29 4/22

★来年度の海外留学支援制度(学部学位取得型)の募集

日本学生支援機構より諸外国の大学へ留学する日本人学生等に対し、国費より学修活動に必要な経費を支援します。返済不要の給付型奨学金。昨年は45名が新たな対象者となりました。

- 対象分野：学士の学位取得が可能な分野
- 支援期間：原則4年間
- 他の奨学金との併用：可
- 事前登録：11月12日まで
- 申し込み：11月14日(水)17時必着
- 支援内容：奨学金/月額5.9万円～11.8万円
授業料/実費で上限年間250万円

※詳しくは(独)日本学生支援機構のウェブサイト及び国際交流チーム三角先生、藤本先生まで

★地震で延期したラグビーワールドカップ2019国際交流入門講座12/16

神田外語大学の教授陣が来道し、おもてなし英語や英会話のコツなどを、講座やeラーニングで学びます。軽食を取りながら1日を過ごす有意義な研修です。日程は12月16日、場所は「ちえりあ」にて。申し込みは各自でWebですが、国際交流チームへも一報ください。
https://www.kandagaigo.ac.jp/s_summer/place/sapporo/

★トビタテ! 留学JAPAN第5期(来年度派遣)の応募が始まりました!

「トビタテ! 留学JAPANアカデミックテイクオフ」を使い、今年度は3名の生徒がフランス・アメリカ(フロリダ)・オーストラリアにトビタちました。また、アカデミックロングを選んでトビタち、現在ニュージーランドに滞在中の生徒もいます。参加した生徒は皆さん「素晴らしい体験だった」「事後研修で東京に集まったとき、自分も凄いいことをしてきたんだと改めて実感した」「多くの人から刺激を受けた」と言っています。来年度も多くの皆さんにぜひ挑戦してもらいたいと思います。既に申し込みは始まっています。トビタテ! 留学JAPANに関して、校内外で様々な説明会が実施されますのでいくつかを紹介します。その他、国際交流チーム掲示板のポスター等をご覧ください。

- アカデミックロング応募期間：平成30年10月1日～平成31年1月29日
- *新高校1年生対象アカデミックテイクオフの応募期間は平成30年10月1日(月)～平成31年4月22日(月)です。
- 本校担当者：森(秀樹)・メンドーザ 電話：788-6987

- ★「北海道海外大学進学・留学フェア」：11月10日(土)13時～17時 @TKP札幌ホワイトビルカンファレンスセンター
 - ・北海道教育委員会が主催し、豪領事館、カナダ在日事務所、各留学関連団体などによる説明会です
 - ・留学中の単位認定等。トビタテ! 留学JAPANに関し、その紹介、経験者による体験談報告、個別相談等
 - ・学校毎の参加申込みにつき、参加希望者は10月23日(火)13時までに国際交流チーム三角・藤本へ。
- ★「サークル・ザ・ワールド」：11月10日(土)10:00～12:00 @大通高校
 - ・本校からのトビタテ! 経験者4名もプレゼンターとして参加!
 - ・札幌市内のALTが集結し、午前午後を通して活きた英語を楽しく学べる一日です。
 - ・申し込みは10月24日までに国際交流チーム森(秀)先生、ウォン先生へ申し込み用紙を提出。
- ★校内「トビタテ! 説明会」：12月中旬頃実施予定

10/22、海外研修から5年生が帰国! オーストラリア、シンガポール、マレーシアに分かれての研修での報告が楽しみです。ね。

この夏、海外で研修した生徒の声

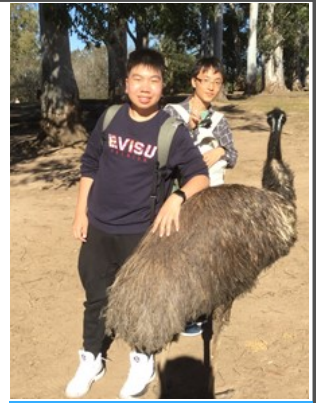
今年度、本校から「トビタテ！留学JAPAN」の奨学金を得て海外留学を果たした生徒が3名います。H君は、音楽の研究のためにオーストラリアへ向かいました。



ディジュリドゥはシロアリにユーカリの木を食わせ中を空洞にして作る

4年 H・S

皆さんはディジュリドゥを知っていますか？ディジュリドゥはアボリジニの民族楽器です。僕はこういって世界の民俗音楽に以前から大変興味があって、この夏、文科省と企業が支援する「トビタテ！留学ジャパン」という奨学金制度を使って、2



僕と香港から来た友達とエミュ

週間ほどオーストラリアに英語と音楽を学ぶために留学してきました！

向かったのは大陸の東に位置する都市ブリスベンです。ここはディジュリドゥの本場と言われており、行く前からアボリジニの素晴らしい文化に触れられることを楽しみにしていました。期待通り、現地では実際にアボリジニの方からレクチャーを受けながらのディジュリドゥの演奏をすることができました。彼らの音楽はリズムがとても特徴的でしたが、その響きはアイヌの口琴のそれと似ているのに気づき、なぜ遠く離れた2つの民族の楽器の響きに共通するところがあるのか不思議で、それぞれの文化が生まれた背景をもっと知りたいと感じました。

また、現地の生の英語にもたくさん触れてきました。ホストファミリーとの生活場面での会話はもちろん、オーストラリアの癖のある方言英語もその1つでした。例えば、breakfastがbreaky、mosquitoがmozzieといったように、もとの英語とはかけ離れたカタチの単語が会話に度々出てくるので、理解するのに苦労しました。しかし普通の英語圏では経験できないことなので、貴重な体験ができたと感じています。英語の詩やオーストラリア料理の英語の本を読むこともでき、さまざまな分野の新しい単語、文法に出会えました。

留学中には現地の語学学校に通いました。アジア系の学生が多く集まっていた、台湾、タイ、中国など色々な国の友達を作ることができました。彼らの国の音楽について教えてもらったり、日本の音楽や文化を伝えているうちに、「どんな国のどんな人でも英語がわかれば通じ合えるんだ」ということに感動を覚えました。当たり前なことですが、これがきっかけで僕の中の「英語を学ぶこと」の意味合いが以前と比べ少し変わった気がします。将来は英語を使って日本と海外をつなぐ仕事がしたいと思うようになりました。

留学はとても敷居が高いように感じるかもしれません。たしかに、言葉が通じないと苦しい時もあります。しかし、実際に留学を体験することで、あなたにしか見えない景色が見えると思います。

車いすで繋がった心 4年 K・R

私はこの夏、パラオの障がい者施設へ車いすを届けた。これは「飛んでけ！車いす」というNGOの取り組みで、研修や旅行で外国に行く際に障がい者施設等に車いすを届ける活動だ。私には、最初からこの目的があったわけではない。私が参加した研修のプログラムに、車いすを整備してパラオに届けるという『国際協力』があったのだ。



今まで国際協力という、高校生の私には、募金や寄付など日本にいて行くことが限界だと思っていた。しかし、この研修は自分で現地に届けに行くことができると知り、できるはずがないと思っていたことが私にもできるのだと嬉しくなった。早速私は「飛んでけ！車いす」の事務所での車いすの整備をした。実際に整備してみると、力仕事はもちろん、部品の順番を覚えて組み立てる細かい作業など様々だった。最初は、汚い所を触るのが嫌で積極的にできなかつたが、スタッフの方々を見てみると、汗でメガネが曇ることも汚れた所を素手で触ることも気にせず整備をしていた。その姿から「車いすで困っている人を助けたい」という強い思いが感じられ、誰かを助けたいなら、まず自分が本気で向き合うことが大切だと気がついた。作業を進めて行くうちに私は、「どんな人に受け取ってもらえるのかな」「喜んでくれるといいな」と思うようになり、気がつくど汗だくで、手も汚れていた。

いよいよ、パラオの障がい者施設へ行く日、想像していたよりも建物が狭く、地面も整ってなかった。施設に入ると、一人の小さな男の子が迎えてくれた。アンジー君だ。突然の訪問に驚いたのか、大きな声を上げて泣いてしまった。私はその時、本当に喜んでもらえるのかという不安に駆られた。アンジー君は11歳。体は少し小さめだが、それにも見えるからに小さすぎる車いすに座っていた。日本から運んできた、それまでのより少し大きな車いすをそっとアンジー君の前に差し出すと、アンジー君ははにかみながら、ゆっくりと座ってくれた。そして感触を確かめるように体を動かした後、可愛い笑顔を見せてくれたのだ。その後アンジー君は、私たちに何度も「ありがとう」と日本語で言ってくれた。その笑顔と一生懸命に日本語で感謝を伝える姿を見て、私が行った活動で笑顔になってくれる人がいるのだと嬉しさがこみ上げた。そして、泣いていたアンジー君が心を開いてくれたことに胸が熱くなり、今度は私が泣きそうになった。

その後施設長からお話があり、その中で私が一番心に残ったのは「また来て欲しい」と繰り返して話していたことだ。初めは、また会いたいという意味に捉え嬉しかったが、よく考えてみるとそれは、「車いすを届けて欲しい」というメッセージだったのではないだろうか。今回は5台の車いすを届けたが、まだ必要なことは、施設を見渡せばすぐにわかる。使い古した車いすを修理して使っている様子を見て、1回だけの活動で満足してはいけなさと痛感した。

私は今まで、国際協力と言いながら日本でできる文房具の寄付などで、やった気になっていた。また、現地に行って活動するなんて危険だから出来るわけない、嫌だと思っていた。しかし、今回の体験を通して、それではいけないと実感した。私は、実際にパラオに行ったことで、アンジー君が喜んでる姿を見ることができた。そして本当に車いすを必要としてくれていたことを知り、自分が少しでもそこに関わることがとても嬉しかった。私は将来、外国の方々が安心して日本を旅行できるよう、観光業に就きたいと考えている。どんなことが不安なのか、嬉しいのか、相手に寄り添って考えることが求められる。国際協力もこのように、世界のどこかにいる誰かのことを思い、本当に必要とされていることを考えることから始まるのではないだろうか。これからは、相手の心に寄り添うことを大切に考えながら生活していきたい。そしてまた、アンジー君の笑顔に会いに行きたいと思う。



● 夏にシンガポールで行われた「日本語スピーチコンテスト」の入賞者3名が、十勝シンガポール友好協会に招かれて来道します。開成でも12月18日(月)にスピーチ発表をしてもらおう予定です。(日本語がとても堪能な女子高校生3名)そこで、**12月17日(日)夕方から1泊、ホームステイを受け入れてくれるご家庭を募集します。**4月に「受け入れOK」と登録してくださった方も、今一度、国際交流チームへ声をかけてください。(11月9日まで)